



第1回 循環器内科病診連携症例検討会開催

循環器内科部長 城田 欣也

近年著しい高齢化、疾病構造の変化、医療ニーズの多様化、医療提供体制の機能分化により1人の患者を1施設だけで完結させるのは困難であり、地域完結型医療への転換がより強く求められています。そこでは病診連携に代表される各種連携が欠かせず、病院と診療所がそれぞれの役割・機能を分担し、患者様のためにお互いに連携しながらより効率的・効果的な医療を提供することが重要と考えます。しかしながら実際にはその連携が円滑に行えていないのが現状であり、根本的問題として双方のコミュニケーション不足と考えました。

そこで当科としては、診療所の先生方よりご紹介いただいた患者様や、こちらから逆紹介させていただいた患者様について双方の理解を深め、患者様により良い医療を提供する事を目的とした症例検討会の場を設ける事を企画しました。検討会は松江圏域の診療所の先生方より当科へご紹介、または当科より逆紹介させていただいた患者様で、診療所の先生方が診断・治療などに関し、さらに詳しい説明や検討を要望される症例とし、原則毎月

第4水曜日19時より松江赤十字病院地下1階心カテーテル検査室カンファレンスルームにて行う計画あります。

第1回は平成28年11月30日(水)、20例を超える症例について多数の診療所の先生方と当院循環器内科スタッフとでディスカッションを行い、大変充実した検討会となりました。双方に無理なく、末永く続けられる検討会を目指しております。大変お忙しいとは存じますが、ご都合がつく限り奮ってご参加いただきますようお願い申し上げます。



新任医師紹介



●平成28年12月1日付

精神科

杉江 拓也 [すぎえたくや]

松江赤十字病院精神神経科医師として、地域のニーズに応えられる最良、最善の医療を提供できるよう尽力したいと思います。よろしくお願いします。



退職

集中治療科部長 濱田 孝光 (平成28年12月31日付)

皮膚科 伊藤亜矢子 (平成28年12月31日付)



松江赤十字病院 地域医療連携課
〒690-8506 松江市母衣町200番地
TEL 0852-32-7813 FAX 0852-27-9261



松江赤十字病院 地域医療連携課

日本赤十字社

れんけいだより



年頭のご挨拶

病院長
秦 公平

県の医師会ニュースにも寄稿しましたが、今年度の診療報酬改定で、7対1入院基本料の算定条件の一つである、重症度・看護必要度の項目が変更されました。新たに救急からの入院や幾つかの手術の

施行が項目のスコアに加えられ、当院のような救急をしっかり受け、手術を沢山行う病院では、看護必要度が上がる仕組みとなりました。しかし一方でこの項目を満たす患者の割合が全患者の25%（以前は15%）とされました。看護必要度の低い患者さんは早く転院・退院をさせなさいという圧力は今回さらに強くなってきており、どの病院も苦労しているようです。当院においては、新入院患者は増えてきておりますが、この看護必要度の項目を満たすために、転院・退院を促さざるを得ず、今度は病床利用率が下がり、入院における医業収入を保つのが難しい状況になってきています。

これらに対応するために、病棟再編についてプロジェクトチームを作りて検討した結果、8月から7階東病棟を閉鎖し、狭くて問題となっていた外来化学療法室をここへ移すなど機能の充実を図っています。患者さんからは広くなつて良い、見晴らしが良いなどと好評です。

一方で地域医療構想や地域包括ケアが議論され、病院も対応を迫られてきています。急性期から回復期、慢性期、在宅まで今以上に連携をとらないといけません。どこの時期の医療でも一つがボトルネックになってスムーズな連携がとれなくなると患者さんが困ることになります。当院では既に地域連携室を設置しておりますが、これから更に入退院支援部門を作り、入院前から患者さんへの広報を行い、円滑な入院や転院、在宅への退院を考慮しつつ、退院後の先生方との緊密な連携を進めていこうと思っております。

何卒宜しくお願い申し上げます。



第1回安来圏域地域医療従事者スキルアップセミナー開催

スキルアップセミナーに参加して



安来第一病院
地域連携室 村社 美紀子

去る10月13日(木)に松江赤十字病院様により、当院で第1回安来圏域地域医療従事者セミナーを開催していました。安来市には高度急性期機能をもつ病院がなく、松江赤十字病院様はじめ松江、鳥取県の病院で急性期治療を受けておられる患者様が多いのが現状です。

今回のセミナーは、安来地域で、日頃患者様が受けている実際の急性期治療について、先生方をはじめ認定看護師の方、理学療法士の方と様々な方面からご講演いただきました。当院は、医師はじめ、看護師、理学療法士等様々な職種73名が参加しました。また、地域の開業医の方や介護保険施設の方も参加され、非常に興味深いセミナーを開催していただいたことを実感しました。

講演は、非常にわかりやすく、実際に行われている急性期治療について学ぶことができました。さらに急性期治療後の療養、リハビリにおけるポイントなど私たちが引き継ぐ治療について学ぶことができたように思います。

医療の機能分化が進められる中、今回のセミナーを通じて、顔の見える関係づくり、さらには医療機関同志の連携が前進するきっかけを作っていたように感じます。終了後、もっと詳しく聞いてみたかった、今後もこのような機会を持っていただきたいという声も多くありました。

今年度、島根県地域医療構想が策定されました。機能分化、医療連携がますます促進されるとされています。松江の方にとって安来は遠いと思われがちですが、実際は隣接する市です。同じ松江圏域の医療機関として、患者様にとって質の高い医療・ケアが継続して提供できるよう当院の機能の向上に努めていきたいと思います。今回のセミナーを開催していただき感謝申し上げます。そして今後とも引き続きご指導くださいますようよろしくお願ひいたします。



安来第一病院
看護師 田中 久美子

10月13日に当院にて医療従事者スキルアップセミナーが開催されました。高齢者に多い循環器の疾患である心不全に関しての講演でした。

まず、認定看護師の田中様による「心不全患者の療養支援について」の講演は、超高齢化社会となってきており、それに伴い他疾患共存の可能性が高く、運動機能・精神機能低下による生活力低下、栄養状態の悪化などの原因があり、その為どのような支援が必要であるかを学びました。

循環器内科の城田先生による「高齢化社会における循環器系薬剤使用の注意点」の講演では、刺激伝導系トラブルと出血性トラブルが致死的であり、その為の高齢者に対しての薬剤投与の注意点を述べられました。看護師として、常日頃から患者様の体調の変化、薬剤との関係等を念頭におくことの重要性が理解できました。

そして平井先生の「高齢者心不全をどう診ていくか?」の講演では、心臓機能の説明から始まり、高齢化率が全国第3位である島根県では、高齢者の内服知識の低下のため日常生活の注意点がほとんど厳守されており、今後ますますかかりつけ医との連携や、病院内だけでなく、地域での心不全管理の必要性を述べられました。

また理学療法士の福山様からは、心臓リハビリテーションの定義や実際にやっておられるテスト等について述べられ、いずれも一人でできるものではなく、看護師からは生活指導、薬剤師からは服薬指導、管理栄養士からは栄養指導、理学療法士からは運動療法など多職種での連携の必要性を述べられました。今後、ますます多職種連携のもとでのリハビリが必要になるのではないかと考えます。

この講演を通して、看護師として必要なことは、心臓疾患の病状理解はもちろんのこと、入院当初より医師・看護師・薬剤師・理学療法士等と連携した心不全管理を行い、退院後も悪化状態にならないよう、患者様を援助していくことの必要性を学びました。

今回は、4名もの様々な職種の講師の方々に講演をしていただき、心不全について理解を深めることができました。貴重な講演をありがとうございました。

第3回雲南圏域地域医療従事者スキルアップセミナー開催

スキルアップセミナーに参加して

雲南省立病院 健康管理センター

地域連携室 江角 小百合

「雲南地域の医療従事者のスキルアップに何か役に立たないでしょうか。」松江赤十字病院の地域医療連携課から3年前に声をかけていただきました。地域連携室としても何らかの研修を企画しようと考えていたところでしたので、とてもありがとうございました。

今回で3回目になりました。『急性期病院における脳梗塞治療の取り組み』をテーマに様々な職種が講師となられ講演を聴きました。神経内科の専門医が常勤でいたため、脳梗塞治療の現状は興味深く聞かせていただきました。脳卒中リハビリテーション看護認定看護師の話から、早期離床・ADL拡大のために急性期治療と平行しチームで活動されている様子がわかりました。また、作業療法士からは基本動作と日常生活動作の関係性や急性期でのリハビリテーションでは必須である、リスク確認を医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、病棟

看護師と一緒にされていることを学びました。言語聴覚士からは口から食べて味わう喜びを大切にすること、栄養不足にならないこと、誤嚥を防ぐことが大切であるということを聞きました。

当院は、急性期、回復期、地域包括ケアと様々な病棟があります。今回の内容を聞き各病棟の特徴を振り返り、日々の治療やケアを行わないといけないと改めて感じました。

セミナーへの参加は毎回50名弱です。今までのセミナーの内容も大変興味深いものでした。今後も興味のある疾患などニーズの把握に努め、雲南圏域の質の向上に微力ながら参加させていただきたいと考えています。

勤務時間外に雲南までお越しくださいまして、松江赤十字病院の講師先生や地域医療連携課の皆様に感謝いたします。今後も引き続きよろしくお願ひいたします。



安来第一病院・雲南省立病院での開催にあたり、会場提供・準備等ご協力頂きありがとうございました。
又、圏域の医療従事者様ご参加頂きありがとうございました。



松江赤十字病院



眼科部長 谷戸 正樹

平成28年11月28日(日)、本館6階の講堂を会場に市民の皆さんを対象とした眼の病気に関する公開講座を開催しました。雨が降るあいにくの天候にも関わらず、松江市を中心として268名の参加がありました。過去2回の講座は、用意した椅子が足りず、立ち見の方もいらっしゃいましたので、今年は机を減らし、椅子の数を増やすことでどうにかご参加の方全員に座って頂く事ができました。今年の講座名は「進歩した眼の治療」とし、当院の眼科医師3人が、それぞれ白内障、緑内障、加齢黄斑変性について、基本的な病気の説明に加えて当院で行っている最新の診断・治療法について講演を行いました。

白内障は手術が必要となる眼の病気の第1位、緑内障は日本の失明原因の第1位の疾患です。これら二つで、当院でも年間1200件以上の手術を行っています。加齢黄斑変性は欧米の失明原因第1位で、近年日本でも増えています。抗VEGF薬により治療可能となっており、当院では年1000件に迫る数の硝子体注射を行っています。参加者の年齢は、60代・70代の高齢者が中心でしたが、50歳代以下の参加者も45人ほどおられ、幅広い世代の方にご参加頂きました。

会場の入り口には、製薬会社各社に用意頂いた患者説明用

パンフレットを多数配置しましたが、ほとんど無くなってしまいました。また、講演の合間に、当院の視能訓練士と看護師が制作した、正しい点眼方法を解説するビデオを上映しました。加えて、講演の前や合間に、11階病棟の看護師有志による点眼指導を行うコーナーを設けましたが、こちらにも50名程度の参加者があり、大忙でした。眼科薬物治療の中心となる点眼治療について、正しい点眼方法の周知につながったのではないかと思います。講演が終わった後は、会場からの質問を受け付けましたが、約1時間に渡って、ご自身や家族の方の現在の診断や治療法が良いのかどうか、当院を受診したい場合はどの様な手順が必要か、と言ったことに関して熱心な質問が多数あり、参加者の眼疾患に対する関心の高さを感じました。

多くの失明につながる眼疾患も、早期発見と継続した治療によりコントロール可能となってきました。視覚障害予防のために、今後も市民の皆さんへの眼疾患に関する啓発を継続することは意義があると感じました。

